

F/T09

フェスティバル/トーキョー

PRESS RELEASE

新作『コウカシタ』

振付：井手茂太

3月14日(土)～20日(金)

於：あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)



ユーモアセンスが光る独自の視点と、オリジナリティあふれる振付で身近な
テーマを作品化するイデビアン・クルー主宰、井手茂太の
サプライズ満点の新機軸、トーキョー/バンコク！

お問合せ：フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨 4-9-1 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン内 TEL 03-5961-5202/FAX 03-5961-5207

制作担当：植松 y-uematsu@anj.or.jp F/T 広報担当：及位(のぞき)、ハッセル toiawase@anj.or.jp

／ 作品について

ユーモアセンスが光る独自の視点と、オリジナリティあふれる振付で身近なテーマを作品化するイデビアン・クルー主宰、井手茂太。これまで、イギリスのダンスカンパニー、ダイバージョンズへの振付や、美術家・椿昇、椎名林檎率いる東京事変など、異分野のアーティストとのコラボレーションにも意欲的に取り組み注目を集めてきた。

今回、井手はフェスティバル/トーキョーからの委嘱を受け、自身初のアジア地域とのコラボレーションに挑む。アジアの国々の中から井手が選んだのは、古来からの伝統文化や自然を脈々と守り続ける一方で、西欧の文化も柔軟に吸収・取り入れてきたタイ。

タイの舞台芸術界では、バレエや伝統芸能をのぞけば、日本のような「ダンサー」と「俳優」の明確な線引きがなく、ダンサーも日常的に演技の稽古をし、また俳優も身体的トレーニングを受けている人が多いことが特徴に挙げられる。彼らはそれぞれの舞台での要求に応じ、ダンサー、俳優という肩書きを使い分けることが多い。それゆえ、身体的トレーニングをメインに取り組む日本のコンテンポラリーダンサーとはまた違った、「自分の個性、魅力を前面に押し出す強さ」がタイのダンサーからは強く感じられる。

本作品のタイトル、そしてテーマとなっているコウカシター—高架下は、井手自身がバンコクで得たインスピレーションが元になっている。街の中に存在する高架鉄道、高架橋、高架道路。それ自体は東京もバンコクもさほど違いはないが、その高架下に広がる風景には大きな違いがある。本作品では、日本人ダンサーとタイ人ダンサー混合のスペシャルチームにより、文化的なズレや差異を逆手にとった、それぞれから見たトーキョー、バンコクの現在(いま)を描き出す！

／ ワークショップ・オーディション

本作品に出演するダンサーの選考にあたっては、井手自身がアシスタントと共にバンコクへ渡り 2008 年 10 月下旬に 2 日間のワークショップ形式のオーディションを行った。

予想をはるかに超え、1 日目は 38 名、2 日目は 70 名、2 日間で延べ 76 名が参加。下は 10 代から上は 50 代、職業もダンサーや俳優はもちろん、学生、会社員、メイクアップアーティスト、心理学者、経済アナリストなど、バックグラウンドも様々な個性が光る人々が集まった。

音楽に合わせて歩く、他の人が歩いているのを邪魔する、与えられた振付を踊る、突然のインタビューに答える。参加者の反応によって次々と課題を変え、テンポよく進めていく井手の手法に、最初は緊張し表情の硬かった参加者も次第にほぐれ、笑いの絶えないワークショップとなった。

数日間にわたる選考の結果、最終的に 6 名のタイ人ダンサーが選ばれた。



／ 作品創作・上演の過程

2008年	10月	井手茂太がバンコクへ渡り、出演ダンサーの選考も兼ねたワークショップを開催。 第一回:2008年10月22日 13:30~15:30 第二回:2008年10月24日 13:30~15:30 『コウカシタ』に出演する6名のダンサーが決定。
	12月	井手が再度バンコクへ渡り、タイ人出演者のためのワークショップ、作品のクリエーションを行う。(6日間)
2009年	2月	タイ人出演者が来日。東京に滞在しながらクリエーション。 (30日間を予定)
	3月	世界初演 フェスティバル／トーキョー @あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)
	4月以降	アジアツアー(予定) タイおよび、周辺諸国でのツアー

／ 東京からタイ・アジアツアーへ

フェスティバル／トーキョーでの初演後、本作品はタイおよびタイ隣国にアジアツアーを敢行。成果としての作品発表はもちろん、公演後のディスカッションやワークショップなどを充実させ、アーティスト間はもちろん、制作者やスタッフ間のコミュニケーションとネットワークの促進を図る。

/ アーティストプロフィール



井手茂太

Shigehiro Ide

振付家、ダンサー、イデビアン・クルー主宰

1972年佐賀県生まれ。95年ダンスカンパニー「イデビアン・クルー」を旗揚げ。カンパニーの作品発表をベースに、演劇作品への振付やステージング、PV・CMの振付など、幅広いジャンルで活動。既存のダンス・スタイルにとらわれない自由な発想で、遊び心を

大切にダンスに取り組む。集団の中のコミュニケーションをモチーフに、日常的な身振りや出演者の個性を活かした動きなど、オリジナリティあふれる振付で注目される。群舞や無音の中での少ない動きによって生み出される独特な間合いが作品の特徴で、空間的・時間的な構成力には定評がある。05年には自身初のソロ公演『井手孤独【idesolo】』を発表。ダンサーらしからぬ体型で繰り出される、しなやかで弾力のある動きは観る者の目を離さず、ダンサーとしての注目度も高い。

1998年以降、演劇作品への振付およびステージングにも数多く携わり、『AMERIKA』(03年・松本修演出)、『クラウディアからの手紙』(06年・鐘下辰男演出)、こまつ座&シスカンパニー『ロマンス』(07年・栗山民也演出)、音楽劇『死ぬまでの短い時間』(07年・岩松了演出)など、役者の個性を生かしたユニークな振付で高い評価を得る。また、現代美術家・椿昇や、音楽家・ASA-CHANG&巡礼など、異分野のアーティストとのコラボレーションにも取り組むほか、近年では、東京事変PV「OSCA」、NHK教育「えいごであそぼ」、椎名林檎10周年記念ライブの振付、SAKE ROCKのPV『会社員と今の私』の振付および出演などがある。国外では英国ウェールズダンスカンパニー・ダイバージョンズへの作品提供など、海外でも注目されている。2004年、振付家として初めて読売演劇大賞優秀スタッフ賞を受賞。06年、アサヒビール芸術賞受賞。08年、日本ダンスフォーラム賞受賞。

イデビアン・クルーの主な作品

『茶バシラ』(97年)、『コッペリア』(99年)、『不一致』(00年)、『くるみ割り人形』(02年)、『理不尽ベル』(03年)、『関係者デラックス』(04年)、『迂回プリーズ』(05年)、『補欠』(06年)、『政治的』(07年)、『排気口』(08年)など。

外部での主な振付作品

02年『暗黙の了解～Unspoken Agreement』(英国ウェールズダンスカンパニー・ダイバージョンズ)、03年『いなくていい人』(劇団ダンダンブエノ)、05年『ルル』(白井晃演出)、05年サイトウキネン・フェスティバル 青少年オペラ『フィガロの結婚』(小澤征爾指揮・串田和美演出)、07年ナイロン 100℃『犬は鎖につなぐべからず』など。

出演者プロフィール



齊藤美音子 Mineko Saito

幼小よりクラシックバレエを始め、NY、ロンドンに留学する。1995年旗揚げからイデビアン・クルー参加。2006年フランスを代表する振付家・ジョセフ・ナジの『遊*ASOBU』に出演。パリ市立劇場など5カ国15都市ツアーに参加。また、2008年2月に自身のソロ作品『TESURI』を上演。



金子あい Ai Kaneko

三浦宏之主宰 M-laboratory 『Latest Heat』『トウキョウヒート 02』に出演。中国へ留学し太極拳や少林拳などの中国武術を学ぶ。帰国後、CM、PV、短編映画に出演する。又、菅尾なぎさ主宰、クリウイムバアニーにも参加している。2002年『くるみ割り人形』からイデビアン・クルー参加。



中村達哉 Tatsuya Nakamura

1998年『包丁一本』からイデビアン・クルー参加。2005年パフォーマンスシアター水と油『不時着』に出演。ASA-CHANG&巡礼 feat ハナレグミ「かな」のPVに出演。ソロ活動として、他ジャンルとのコラボレーションなども多数行っている。



カニソン・ヤンプレムプリ Kanison Youngprampree

俳優、ダンサー。1992年、トラキット・バンディット大学(マスコミ学)卒業。ジャズダンス、モダンダンス、バレエ、舞踏、タイ古典舞踊に関わる舞台やイベントに数多く参加。テレビドラマなどもこなす。1997(～1999)年、日タイ共同演劇『赤鬼』(野田秀樹、ニミット・ピピットクン共同演出)や、2002年タイ+フィリピン+弘前劇場・国際共同製作『インディアンサマー』に出演。



クリッサナ・パンペン Grisana Punpeng

現在、大学の演劇講師、および英国エクセター大学の博士号学生。西洋、東洋の様々な演技スタイルを学び、2004年よりバンコクにて演劇活動を開始。これまでに3つの台本を翻訳し、2作品を演出。また、バンコクで有名な6作品に出演。またテレビコマーシャルやホームコメディなどにも出演。



コラコツ・プアンサワツ Korakot Puangsawad

大学の美術学部にて演技と演出を学び、ダンスにも没頭。卒業後、Bird-Thongchai McIntyre のコンサートやプロモーションビデオ、テレビドラマなど多くの作品に出演し、また脚本家としても活躍(『Lang Ka Dang』2003 や『Tarad Nam Dam Nuen Rak』2007 など)。また今年 9 月にソロ作品『E-Tim the Musical』を発表。現在、GMM LIVE のコ・プロデューサーとしてバンコクの GMM グラミーに常勤しながら、演劇・ダンスなど多くの作品に参加し続けている。



チャンチャナー・アジラティカーン Chancha Akjiratikarl

大学にて映画と写真を学び、フリーの映画製作者としてだけではなく、ダンサー、振付家としても活躍。幼少よりダンスを学び、特にバレエとコンテンポラリーダンスに魅了される。タイで有名なスターThongchai McIntyre のダンサーの一人として選ばれ、多くのコンサートに出演。また、女優として、観客賞を受賞した『Sab Harn Song』などの芝居にも参加。また、彼女自身のダンス映画『Fat Girl』はタイ・ショートフィルムフェスティバルで受賞し、シンガポールでのアジアフィルムシンポジウムのショーケースにも選ばれた。



チャヤヌツ・アジラティカーン Chayanuch Akjiratikarl

チャンチャナー・アジラティカーンは彼女の双子の姉妹。大学にて映画と写真を学び、フリーの映画製作者としてだけではなく、ダンサー、振付家としても活躍。幼少よりダンスを学び、特にバレエとコンテンポラリーダンスに魅了される。タイ・カルチュラル・センターでタイ交響楽団とともに『Magic Broadway』に出演。また、タイで有名なスターThongchai McIntyre のダンサーの一人として選ばれ、多くのコンサートに参加する一方、女優として、観客賞を受賞した『Sab Harn Song』などの芝居にも出演。また、彼女自身のダンス映画『Fat Girl』はタイ・ショートフィルムフェスティバルで受賞し、シンガポールでのアジアフィルムシンポジウムのショーケースにも選ばれた。



アキーラ・モッサクン Akeera Modesakoon

8x8 Theatre のメンバーの一人。フランスの演劇学校“Ecole International de Theatre Jacques Lecoq”を卒業した演出家 Nikorn Saetang に師事。バンコクシアターフェスティバル 2007 にて最優秀賞に輝いた作品や、その他多くのカンパニーの作品に出演。また 2009 年にタイ PBS チャンネルにて放映予定のタイのホームコメディ『Joyful Wedding』にも出演。

/ キャスト/スタッフ

振付・出演	井手茂太 Shigehiro Ide
出演	齊藤美音子 Mineko Saito 金子あい Ai Kaneko 中村達哉 Tatsuya Nakamura カニソン・ヤンプレムプリ Kanison Youngprampree クリッサナ・パンペン Grisana Punpeng コラコツ・プアンサワツ Korakot Puangsawad チャヤヌツ・アジラティカーン Chayanuch Akjiratikarl チャンチャナ・アジラティカーン Chanchaha Akjiratikarl アキーラ・モッサクン Akeera Modesakoon
照明	齋藤茂男 Shigeo Saito
音響	島猛 Takeshi Shima
舞台監督	大川裕 Yutaka Ookawa
主催・製作	フェスティバル/トーキョー Festival/Tokyo
共催	国際交流基金 The Japan Foundation
後援	タイ王国大使館 Royal Thai Embassy, Tokyo 日メコン交流年 2009 Mekong-Japan Exchange Year 2009
協力	マッチポイント Match Point 、days



／ 公演、チケット情報

会場 あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)
 チケット料金 全席指定 一般 4,500 円
 学生 3,000 円(要学生証提示)／高校生以下 1,000 円
 お取扱い フェスティバル/トーキョー(HP のみ) ぶれいす(電話のみ)
 電子チケットぴあ(Pコード: 391-406)、イープラス
 あうるすぽっとチケットコール 03-5391-0516
 (10:00-19:00/あうるすぽっと3階劇場事務所にて販売/郵送不可)
 としまみらいチケットセンター 03-3590-5321 (郵送不可)

公演スケジュール

3/14 sat	3/15 sun	3/16 mon	3/17 tue	3/18 wed	3/19 thu	3/20 fri
17:00	17:00	19:00	19:00	休演	19:00	14:00

F/Tパフォーマンス チケット 2008 年 12 月 18 日(木)前売開始 ※F/T 参加作品は対象外

■チケット取扱

フェスティバル/トーキョー(HP のみ) <http://festival-tokyo.jp>

ぶれいす(電話のみ) 03-5468-8113(平日 11:00-18:00)

電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード予約) <http://pia.jp/t> ※『サンシャイン 63』と『演劇/大学 09 春』は対象外

イープラス <http://eplus.jp> ※『サンシャイン 63』と『演劇/大学 09 春』は対象外

- ・指定席の場合、開演時間に遅れたお客様はご指定のお席にお座りになれない場合がございます。
- ・未就学児童のご入場はお断りさせていただきます。
- ・受付開始及び当日券の販売は開演 1 時間前、開場は 30 分前からとなります。
- ・チケットの払戻、観劇日の変更はできません。
- ・チケット料金には消費税が含まれます。

F/Tパフォーマンスを、選んで観る。全部観る。誘って観る。学生も観る。

フェスティバル/トーキョーならではのお得なチケットでお楽しみください。 ※フェスティバル/トーキョー・ぶれいすのみ取扱い

◇F/T 回数券 **選んで観る!** ※お好きな演目を選んでご覧いただけます。(『サンシャイン 63』は対象外)

3 演目 ¥10,000 (¥3,333/枚)、5 演目 ¥15,000 (¥3,000/枚)

◇F/T パス(13 演目) **全部観る!** ※全ての演目をご覧になれます。(『サンシャイン 63』は対象外)

¥30,000(¥2,300/枚)

※F/T 回数券、F/T パス(13 演目)のお取扱いについて

- ・2 月 13 日(金)18:00 まで販売(限定枚数)
- ・観劇演目・日時が未定でも購入できます。
- ・購入後は演目・日時のご予約を受け付けます。
- ・予約なしでも当日ご入場出来ます。但し、満席時はご入場頂けない場合がございます。
- ・確実にご覧頂くためには演目・日時予約をお勧めいたします。
- ・回数券・パスはご本人様のみ有効です。

◇ペアチケット **誘って観る!**

チケット 2 枚分の料金から 10%OFF でご購入頂けます。(例/¥4,500 × 2 枚 = ¥9,000 → ¥8,100)

※2 名同日時観劇のみお受けいたします。 ※当日券のご用意はございません。 ※『演劇/大学 09 春』は対象外です。

◇学生料金 **学生も観る!**

学生 全演目 ¥3,000(要学生証提示) 高校生以下 全演目 ¥1,000

※東京芸術劇場中ホール公演は S 席 ※当日でもご購入できます。

◇Port B セット券(『雲。家。』『サンシャイン 63』) ¥6,400 (¥3,200/枚)

※ぶれいすのみ取扱 ※2 月 13 日(金)18:00 まで販売(限定枚数)

3 演目	¥10,000 (¥ 3,333/枚)	F/T パス	¥30,000 (¥ 2,300/枚)
5 演目	¥15,000 (¥ 3,000/枚)	ペアチケット	10% OFF

/ フェスティバル/トーキョー09 春 開催概要

名称	フェスティバル/トーキョー09 春 Festival/Tokyo 09 spring
会期・会場	2009年2月26日(木)～3月29日(日) 東京芸術劇場 中ホール 小ホール 1・2 あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター) にしすがも創造舎
プログラム	F/T パフォーマンス 14 演目 F/T 参加作品 5 演目 F/T プロジェクト(シンポジウム/ステーション/クルー)
主催	東京都 財団法人東京都歴史文化財団 フェスティバル/トーキョー実行委員会 豊島区、財団法人としま未来文化財団、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン
共催	社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター
事業共催	国際交流基金
協賛	アサヒビール株式会社、株式会社資生堂
助成	財団法人アサヒビール芸術文化財団
後援	外務省、社団法人日本芸能実演家団体協議会、社団法人日本劇団協議会
協力	東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、 豊島区観光協会、社団法人豊島産業協会、社団法人豊島法人会
宣伝協力	株式会社ポスターハリス・カンパニー

平成 20 年度文化庁国際芸術交流支援事業

提携事業 東京芸術見本市 2009

/ 写真/クレジット一覧



『井手孤独【idesolo】』 ©青木司 Tsukasa Aoki

ポートレート: 井手茂太



©The Japan Foundation